感染症発生動向調査委員会報告　2 月

≪今月のトピックス≫

- **A 型肝炎の届出がありました。千葉県での感染と思われます。**
- **オウム病の届出がありました。感染経路は不明です。**
- **劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が 2 件ありました。**
- **インフルエンザの報告が減少しています。A型の報告が 1424 件、B型の報告が 1098 件と、B型の報告割合は増加しています。**
- **流行性耳下腺炎の報告がこの時期にしては多めに推移しています。**

全数把握疾患

＜細菌性赤痢＞

2 月は 23 日現在で 1 例の報告がありました。インドでの感染と思われます。

＜パラチフス＞

2 月は 23 日現在で 1 件の報告がありました。ミャンマーでの感染と思われます。

＜A型肝炎＞

2 月は 23 日現在で 1 件の報告がありました。千葉県での経口感染と思われます。千葉県で複数報告のあった集団発生群とシークエンスで遺伝子が一致しています。A型肝炎についてはこちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所　HP　http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hav1.html

＜オウム病＞

2 月は 23 日現在で 1 件の報告がありました。オウム病は、鳥類の排泄物に含まれるクラミジアによる感染症です。インフルエンザ様の症状を呈する異型肺炎等の肺臓炎の型と、肺炎症状が顕著でない敗血症様症状を呈する型とがあります。高熱での突然発症が多いですが、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などが時にみられます。時には、髄膜炎、多臓器障害、ショック症状を呈し、死に至る可能性もある疾患です。

オウム病についてはこちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所　HP　http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/psittacosis1.html

＜マラリア＞

2 月は 23 日現在で1件の報告がありました。ガーナでの感染と思われます。熱帯熱マラリアでした。

＜ウイルス性肝炎＞

2 月は 23 日現在で1件の報告がありました。C型肝炎でした。C型肝炎は、急性肝炎を発症した後、30～40%ではウイルスが検出されなくなり、肝機能が正常化するが、残りの 60～70%はウイルスが残り HCV キャリアになり、多くの場合、急性肝炎から慢性肝炎へ移行します。慢性肝炎から自然寛解する確率は 0.2%と非常に稀で、10～16%の症例は初感染から平均 20 年の経過で肝硬変に移行します。肝硬変の症例は、1 年あたり 5%以上と高い確率で肝細胞癌を発症します。C型肝炎についてはこちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所　HP　http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hcv1.html

急性ウイルス性肝炎は、C型肝炎も含めた全てが届出の対象です。

届出基準と届出様式については、 **横浜市衛生研究所 HP** を御覧ください。

届出基準 http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/infection/pdf/kijun/go02.pdf

届出様式 http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/infection/pdf/yousiki/go02.pdf

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞

2 月は 23 日現在で 2 件の報告がありました。1 件は創傷感染によるものでした。

1 件が扁桃腺炎による感染でした。劇症型溶血性レンサ球菌感染症についてはこちらを御覧ください。

国立感染症研究所 HP http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g2/k02_46/k02_46.html

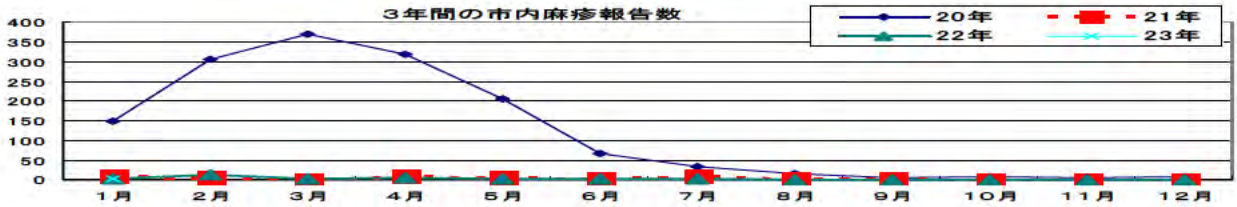
＜急性脳炎＞

2 月は 23 日現在で 2 件の報告がありました。1 件はインフルエンザ B 型、1 件は原因不明です。

＜麻疹＞

2 月は 23 日現在で 1 件の報告がありました。10 歳の方です。きょうだいからの感染と思われます。ワクチン接種歴はありませんでした。ウイルスの genotype は D9 でした。平成 20 年には市内では 1485 人の届出がありましたが、平成 21 年には 43 人、平成 22 年には 32 人と激減しています。また平成 22 年には 30 件程度、届出の取り下げがみられました。平成 23 年に入って 4 人の届出があり、2 人にPCRで麻疹ウイルスが確認されていますが、1 人がフィリピンでの感染で、もう 1 人はそのきょうだいの感染でした。麻疹についてはこちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所 HP http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/measle1.html



定点把握疾患

平成 23 年 1 月 17 日から 2 月 20 日まで(平成 23 第 3 週から第 7 週まで。ただし、性感染症については平成 23 年 1 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 23 年 週－月日対照表

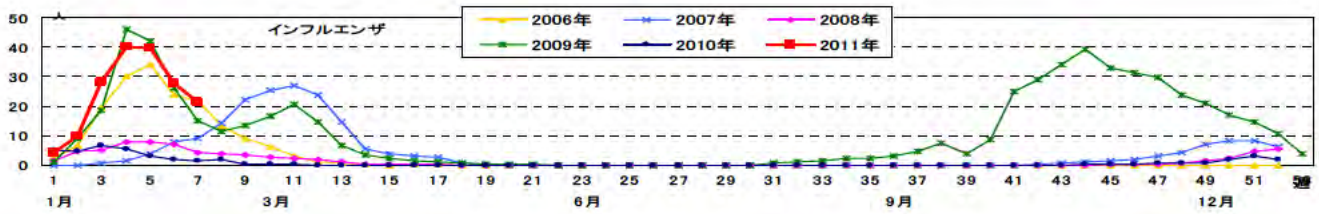
第 3 週	1 月 17～23 日
第 4 週	1 月 24～30 日
第 5 週	1 月 31～ 2 月 6 日
第 6 週	2 月 7～13 日
第 7 週	2 月 14～20 日

1 患者定点からの情報

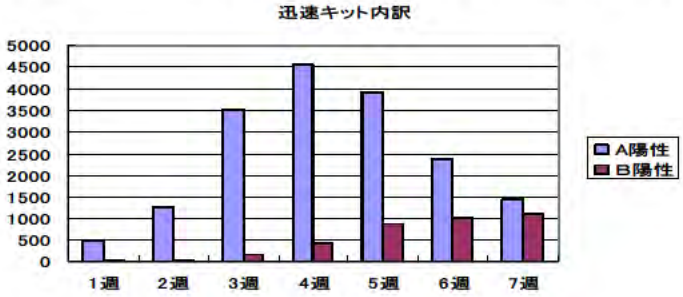
市内の患者定点は、小児科定点:91 か所、内科定点:59 か所、眼科定点:18 か所、性感染症定点:26 か所、基幹(病院)定点:3 か所の計 197 か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の 11 感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計 150 定点から報告されます。

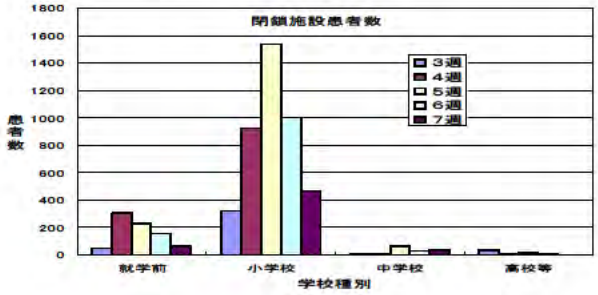
＜インフルエンザ＞

第7週は定点あたり21.27 でした。第 6 週の 27.64 より低下しています。定点あたり30を超えた行政区は、都筑区(32.63)、神奈川区(32.40)のみでした。神奈川県では21.92、川崎市は21.78、全国 16.35、東京都 16.28 でした。



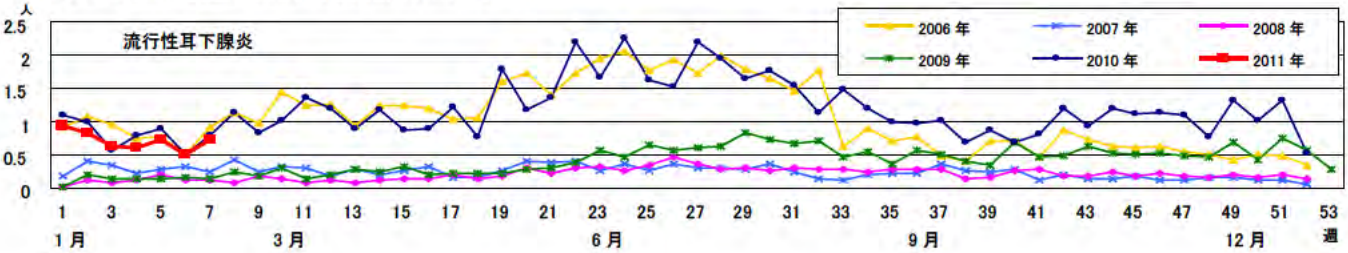
定点医療機関の協力で行われている迅速キットの内訳は、第 7 週はA型 1424 件、B型 1098 件で、43%がB型でした。施設閉鎖は、第 7 週では、33 施設、570 人と、減少傾向です。





＜流行性耳下腺炎＞

第 7 週は定点当たり 0.72 でした。過去5年との比較では、高めに推移しています。神奈川県は 0.62、川崎市は 0.52、全国 0.98、東京都 0.28 です。



＜基幹定点＞

週報では、第 4～6 週に、マイコプラズマ肺炎が 4 件報告されています。

月報では 1 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が 14 例、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は 0 例、薬剤耐性緑膿菌感染症は 0 例でした。

2 月から薬剤耐性アシネトバクター感染症が 5 類の基幹定点の報告に追加されました。薬剤性アシネトバクター感染症の届出は、3 月以降の委員会報告に反映される予定です。届出基準、報告用紙については、 **横浜市衛生研究所 HP** を御覧ください。

届出基準 http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/infection/pdf/kijun/go02.pdf

届出様式 http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/infection/pdf/yousiki/go02.pdf

【 感染症・疫学情報課 】

2　病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点：9か所、インフルエンザ（内科）定点：3か所、眼科定点：1か所、基幹（病院）定点：3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点53件（鼻咽頭ぬぐい液49件、ふん便3件、嘔吐物1件）、内科定点14件（鼻咽頭ぬぐい液）、眼科定点1件（結膜ぬぐい液）、基幹定点13件（鼻咽頭ぬぐい液）でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ（疑い例を含む）39 人、上気道炎5人、下気道炎2人、胃腸炎5人、りんご病、突発性発疹症各1人、内科定点はインフルエンザ（疑い例を含む）13人、上気道炎1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ（疑い例を含む）11人、脳症、上気道炎各1人でした。

3 月 10 日現在、小児科定点のインフルエンザ患者 4 人からインフルエンザウイルス AH1pdm（以下AH1pdm）型、インフルエンザ患者8人と胃腸炎患者1人からインフルエンザウイルスAH3（以下AH3）型、インフルエンザ患者9人からインフルエンザウイルスB（以下B）型、上気道炎患者2人からアデノウイルス、内科定点のインフルエンザ患者6人からAH1pdm型、1人からAH3型、1人からB型、基幹定点のインフルエンザ患者1人からAH1pdm型、2人からAH3型、インフルエンザ患者1人と脳症患者1人からB型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のインフルエンザ患者1人からAH1pdm型、6人からAH3型、インフルエンザ患者8人と下気道炎患者1人からB型、内科定点のインフルエンザ患者3人からB型、基幹定点のインフルエンザ患者2人からAH1pdm型の遺伝子が検出されています。また、B型が分離された基幹科定点の脳症患者から、AH1pdm型の遺伝子も検出されました。

その他の検体は引き続き検査中です。

【検査研究課　ウイルス担当】

＜細菌検査＞

2月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点からの菌株受付8件で、その内訳は赤痢菌1件、パラチフスA菌2件、不検出5件でした(表)。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの5件で、そのうち2件からA群溶血性レンサ球菌が検出されました。その血清型はT1、T12、でした。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症の受付は定点以外の医療機関からの1件で、vanｖ遺伝子は検出されませんでした。

表　感染症発生動向調査による病原体調査（2月）　細菌検査

感 染 性 胃 腸 炎

検 査 年 月	2月			2011年1～2011年2月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数	0	8	0	1	13	2
菌種名						
赤痢菌		1			1	
腸管病原性大腸菌						
腸管出血性大腸菌						1
腸管毒素原性大腸菌						
チフス菌						
パラチフスA菌		2			2	
サルモネラ						
カンピロバクター						
黄色ブドウ球菌						
不検出		5		1	10	1

その他の感染症

検 査 年 月		2月			2011年1～2011年2月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数		5	0	1	8	1	15
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1	1			2		
	T4						
	T6						
	T12	2			3		
	T13						
	T25						
	T28						
	T B3264				1		
	型別不能						
G群溶血性レンサ球菌							
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						1	
バンコマイシン耐性腸球菌							14
髄膜炎菌							
Streptococcus suis							
Corynebacterium ulcerans							
Legionella pneumophila							
セレウス菌							
破傷風菌							
不検出		2	0	1	2	0	1

＊　定点以外医療機関（届出疾病の検査依頼）

＊＊劇症型溶血性レンサ球菌感染症

T（T型別）：A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【検査研究課　細菌担当】